

鹿児島流

熱いハートの医師 育てます



荒平天神（鹿屋市） 写真協力：観光かごしま大キャンペーン推進協議会

私の臨床研修医時代

大隅鹿屋病院
循環器内科ありま たかし
有馬 喬

出身校 宮崎西高等学校 ▶ 宮崎大学医学部

私の研修医時代は、新医師臨床研修制度が施行されたばかりでした。研修医の単独診療が原則禁止され、研修医の安全な診療が担保される一方、ややもすれば過保護となり、知識や手技の習得に大きな時間がかかるのではとの懸念を感じていました。

そんな時、出会ったのが大隅鹿屋病院でした。その病院は徳洲会故の荒っぽさは感じましたが、明日からではなく、その日の午後からでも使えるような超実践的な知識や技術を惜しみなく教えてくれる先輩たちがいました。それは医師のみならず、コメディカル、パラメディカル等多くのスタッフが研修医を一生懸命育てようとしていました。立地是最悪ですが、これからの長い医師人生のスタートを切るのここしかない!と直感しました。

研修医が少なく、症例の取り合いは無し、やりたい事をやりたいだけできる環境でした。しばしば「自由」と「勝手」をはき違え、怒られもしましたが、思っていた以上の実力をつけることが出来たと自負しています。

今は自分たちで育てた研修医に囲まれ、あの頃の事を思い出しながら日々頑張っています。皆さんも当院で医師人生のスタートを切ってみませんか。



◀ 現在

研修医時代▶



出身地 宮崎県

指導医の思い出



出身地 宮崎県

もりうち あきひろ
森内 昭博

出身校 宮崎西高等学校▶鹿児島大学

勤務先▶鹿児島医療センター

私は1995年に鹿児島大学卒業後、出身地に帰ることを選択し、宮崎医科大学の第2内科に入局しました。当時はまだ70%程度が鹿児島大学に残る時代で、同窓生と離れるのは不安がありましたが、幸い同期の入局者に恵まれ、忙しくも楽しい研修医時代を送ることができました。当時の宮崎医科大学の内科は第3内科まであり、内科初期研修は最初の1年間で各内科を4カ月毎にローテーションするものでした。たった8カ月の他科の経験ですが、急性解離性大動脈瘤の手術待機のため一晩中ベットサイドで過ごした患者さんのことや、脊髄小脳変性症の若い患者さんのことなど、今でも覚えています。医師として経験を重ねることは大切ですが、一方で患者さんはどうしても専門分野に偏ってしまいます。医者になって最初の2年間の経験は、その時にしかできないものです。研修医の皆さん、今の時間を大切に過ごして下さい。



出身地 鹿児島市

ひじくろ ともひろ
肱黒 公博

出身校 甲南高等学校▶自治医科大学

勤務先▶霧島市医師会医療センター

大学を卒業したのち、2年間の初期研修が開始となりました。私は鹿児島大学病院と鹿児島市立病院でそれぞれ一年ずつ研修させて頂きました。どの診療科の指導医の先生方も親身に、熱心にご指導くださいました。診療技術等はもちろんのことですが、多科ローテートのおかげで、多くの診療科の先生方との人脈ができた事も、自身が地域で医師として仕事をするにあたり、大きな財産の一つとなった様に思います。

これから研修される先生方、様々な科で研修できるのはこの2年間しかないかもしれません。勉強はもちろんですが、積極的に人との関わりを持って（医師のみでなく）、多くの人とのつながりを作ってほしいと思います。



出身地 鹿児島市

はるた ひろあき
春田 弘昭

出身校 ラ・サール高等学校▶大分医科大学

勤務先▶鹿児島生協病院

「未来の名医たちへ送る」

今回は研修医時代の思い出をとの投稿依頼があり、こうやってPCに向かい当時の記憶をたどっていますが、実は研修医時代の思い出がほとんどないのです。よほど日々何も考えずに過ごしていたんでしょうね（苦笑）

当時は漠然と心臓外科医を目指していたのですが、その当時カテーテルという道具を使った治療が行われ始め、当院でも本格的にカテーテルによる治療を行うことになり、私はそのパイオニアとして手技を学ぶため国内の専門病院で研修し現在に至ります。その後、色々な患者さんと出会い、様々な症例を経験することで人間的にも成長させてもらえることができたと思っています。

若い先生方には、一つ一つの症例から疾病だけでなく、その疾病を発症するに至った社会的背景まで理解して、サポートしてあげられるような医師になっていただきたいと思います。

先生方の未来に期待しています。お互いに頑張りましょう。



出身地 鹿児島市

はるまつ としお
春松 敏夫

出身校 ラ・サール高等学校▶鹿児島大学

勤務先▶鹿児島大学病院

私が初期研修をしたのは10年くらい昔のこと。当時は初期臨床研修制度が始まり5年ほど経過して「根拠なき大学への不安」からこぞって都会の研修病院に流れてゆくような風潮がありました。そんな中で私が選んだのは大学の桜島プログラム。当時は特に難しいことは考えておらず「今後も鹿児島で働きたい研修するなら地元で」という単純な理由でした。大学病院では多くの指導医を始めとするたくさんの医療スタッフに見守られ育てていただきました。大学外では、大島郡医師会病院や聖路加国際病院での研修も印象的でした。ありがたいことに、初期研修医時代に出会った多くの方々到现在も支えていただいております。感謝。

最近では研修医の先生方と一緒に仕事をさせていただく機会もいただくようになりました。まだまだ未熟ではありますが、研修医の先生方と共に学び成長できることを楽しみながら日々を過ごしております。

研修医の声



出身地 鹿児島市

まえの たかあき
前野 孝明

出身校 鶴丸高等学校 ▶ 産業医科大学

研修先 ▶ 鹿児島市医師会病院

時間が経つのは早いもので、研修医2年目の後半戦となりました。基幹病院である鹿児島市医師会病院を離れて修行の旅に出ておりましたが、11月に戻ることとなります。多少なりとも成長した姿をスタッフの方々に見せられることを、楽しみにしております。合計6カ所の協力病院をまわらせていただき、病院の風土、指導医の先生方、そして同僚の研修医の皆さんに色々な刺激を受け、学んでまいりました。協力病院から離れた今でも、街中で声をかけていただいたり、一緒に飲みに行ったりする多くの方々に知り合えたことは、本当に素晴らしいことです！思えば、最初の頃は右も左も分からずに、どうしても受け身になりがちでした。一つ一つ出来ることや判断できることが増え、それが自信につながり、多少は主体的に動ける場面が増えてきました。残りの期間を大切にしながら、研修の総括をしてみたいと思います。



出身地 福岡県

しら き りょうたろう
白木 亮太郎

出身校 福岡県立修猷館高等学校 ▶ 鹿児島大学

研修先 ▶ 今給黎総合病院

研修医として今給黎総合病院で働き始め、早いもので半年が経ちました。最初は「うまくやっていけるだろうか。」と不安な気持ちもありましたが、指導医の先生方やスタッフの皆さんに丁寧に指導して頂き、毎日充実した研修生活を送ることができています。様々な診療科を回りながらそれぞれの科の専門的な勉強をしつつ、救急外来の準夜当直や日直ではたくさんのcommon diseaseを経験していく中で、少しずつですが力がついているのを実感しています。これからも慢心することなく、向上心を持ちながら日々努力を重ねていきたいと思っています。



出身地 鹿児島市

たびら けんた
田平 健太

出身校 ラ・サール高等学校 ▶ 鹿児島大学

研修先 ▶ 今村総合病院

今村総合病院での研修医生活が始まり、早くも半年が過ぎました。消化器内科・外科、神経内科、糖尿病内科での研修を経て、現在は麻酔科で研修をしています。

研修開始当初は右も左もわからず不安でいっぱいでしたが、同期や2年目の先輩、優しく指導して下さる指導医やコメディカルのスタッフに支えられ、少しずつではありますができることが増えてきていると実感しています。当院では、各診療科で主治医という立場で責任感を持って診療にあたり、救急当直では、軽症から重症まで幅広い内科的疾患を経験することができます。目の前の患者さんに向き合い、診断から治療までを考える経験を積むことで、充実した研修生活を送ることができています。

これからの一年は将来の進路を決定する大切な年になると思いますが、今後の鹿児島の医療に少しでも貢献できる医師になれるよう、日々精進していきたいと思っています。



出身地 鹿児島県

あくね けんたろう
阿久根 健太郎

出身校 ラ・サール高等学校 ▶ 鹿児島大学

研修先 ▶ 南風病院

南風病院における6ヶ月間の内科研修を終えて、私は執筆中現在、産婦人科研修を伊集院産婦人科（旧伊集院病院）で行っております。一部の手術の際には第三助手として早速入らせていただくなど、基幹病院における研修とは違った新鮮な経験の毎日です。

新鮮な経験というものは手技や診察のみに限った話ではなく、そこで扱われる物品や薬剤も医療機関ごとに違ってくるともまた新鮮なものでした。根幹にある手技自体は変わらないものの、物品が一つ変わるだけで戸惑うなど、自分の未熟さや学ぶべきものの多さを実感しております。内科研修時に御指導いただいた、手技や物品の把握こそが大切という事を常に頭に置きつつ、今後の研修や診療に臨んでいく所存です。

次は南風病院に戻っての麻酔科。今後も物品やその扱いがわずかに変わる経験を絶やすことなく、自分のものにしていくよう努めて参ります。



第19回鹿児島県臨床研修医合同研修会を開催しました

10月26日(土)に、臨床研修医や医学生の皆さんが、本県で医師としてキャリアを形成していくことをサポートするため、「第19回鹿児島県臨床研修医合同研修会」を開催しました。

当日は、臨床研修医をはじめ166名の関係者が出席し、県内の臨床研修医7名が、これまで経験した研修や症例等を発表しました。

また「医師(プロ)の心得と振る舞い」と題して、佐賀大学医学部国際医療学講座臨床感染症学分野 教授の青木 洋介先生による医学講演が行われました。

参加した研修医からは「今後の診療の糧になるような症例を聞くことができた」、「他の研修医がどのような経験をしているのか知ることができて勉強になった」、「もっと勉強しようと思える内容だった」などの感想をいただきました。

令和2年1月25日(土)には第20回合同研修会を行う予定です。



7名の研修医が発表を行いました。



医学講演「医師(プロ)の心得と振る舞い」



研修会の座長は主に研修医が務めました。

指導医養成講習会を開催しました

当協議会では、研修医に対する指導を行うために必要な『7年以上の臨床経験を持つ医師』を対象に、令和元年11月16日(土)、17日(日)の2日間、「第10回鹿児島県臨床研修指導医養成講習会」を開催しました。

当日の受講者は38名で、臨床研修制度や鹿児島県の地域医療の現状について、また、指導をするにあたって必要な研修目標の立て方や評価の仕方など、16時間以上にわたってプライマリ・ケアの指導方法についての講習を受けました。

この講習会は、厚生労働省の開催指針に則っており、修了者には厚生労働省医政局長名の修了証を授与しました。

当協議会では、研修医の方々がより良い研修を受けられるように、様々な取り組みを行っていますので、ぜひ安心して鹿児島にお越しください!



KJ法を用いたグループディスカッションの様子



グループ毎に研修計画を作成し発表しました。



効果的な研修指導についてのロールプレイの様子

イベントライブラリ ♪♪協議会のイベント情報♪♪

現在、協議会で予定しているイベントの開催・参加情報は次のとおりです。詳細は、事務局までお問い合わせください。多数のご参加をお待ちしています♪

- 第20回鹿児島県臨床研修医合同研修会(日時:令和2年1月25日(土)13:30~17:00(予定))
研修医や専攻医の発表に加え、「泣くな研修医」の著者 中山祐次郎氏の講演を予定しております。
- レジナビフェア2020 福岡(日程:令和2年3月1日(日)、場所:マリンメッセ福岡)
- 県外医学生等出前セミナー
随時開催。研修医や指導医が皆さんのまちに伺い、鹿児島の研修について情報提供を行います。
出前セミナーでしか聞けない情報もあるかも?お気軽にお問い合わせください。

鹿児島県初期臨床研修連絡協議会 (事務局:鹿児島県庁 暮らし保健福祉部 医療人材確保対策室内)

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

e-mail iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp

TEL 099-286-2581 FAX 099-286-5552

<http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/doctorbank/kyougikai/index.html>